

いこま塾 まちづくりワークショップ の開催状況

日 時	テーマ
第 1 回 5/22 (日) 9:00 - 12:00	ワークショップをはじめよう ・ 自己紹介とグループ分け 済
第 2 回 6/12 (日) 9:00 - 12:00	ライフスタイル連想ゲーム ・ 都市 MP の「都市づくりの目標」から連想した自分自身のライフスタイルのイメージについて検討する 済
第 3 回 7/10 (日) 9:00 - 12:00	生駒で目指すライフスタイル (将来像) の共有 ・ グループ内での検討テーマに基づいた、生駒で目指すライフスタイル (将来像) の共有化を図る 済
第 4 回 8/7 (日) 9:00 - 12:00	1 人称のアイデア ・ 第 2 回で検討したライフスタイルを実現していくため自分自身ができること、やりたいこと、誰かと一緒にやりたいことについて検討する 済
第 5 回 9/4 (日) 9:00 - 12:00	アイデアを実現していくために ・ 第 3 ~ 4 回で検討したアイデアを実現していくために関われること、市民の取り組みを活性化するために関われることについて検討する
第 6 回 10/16 (日) 9:00 - 12:00	成果の発表・まちづくり人宣言

状況に応じて多少の変更はあります。

日 時：2011年7月10日 9時～12時
場 所：市役所4階 大会議室
出 席 者：34名

プログラム：1 はじめに
2 ワークショップ
3 講評
4 おわりに

はじめに

まちづくりアクションプランについての説明

「市民まちづくりアクションプラン」は市民（住民・事業者・NPO・学生等）によるまちづくりの取組み方針です。そのため、アクションプランは市民のみなさんに策定していただくことが望まれます。

一連のワークショップでみなさんに出していただいた「一人ひとりができること」についてのアイデアを材料として、9月以降に開催される「市民アクションプラン検討委員会」で議論していく予定です。

近畿大学教授久隆浩氏からひとこと

このワークショップは、市民アクションプランを策定するために開催するという旨のお話がありました。ではアクションプランが必要なかどうかというお話ですが、なくても日々の暮らしはできると思います。しかし、「綱引き」の原理と同じように、市民の方が「同じ方向に」力を合わせ、より大きな力を発揮するために必要なものだと思っています。みなさんのマスタープランは、行政が書くのではなく、みなさんの手でつくられるのが大切です。



茨城県の常陸太田は歴史的なまちなみで有名なまちで、「まちなみを育てる会」という市民の組織が地図を作って配っていらっしゃいます。まちなかのある和菓子屋さんにたまたま入った時に、店の人がその地図を勧めてくださって、地元の方自身が取組みに積極的に関わっていらっしゃるがよく分かりました。他にもまちなみの運動をしているまちはありますが、行政が一方的に進めてしまって、住民が関心を持っていない、というところもあります。やはり、住民の方自身が活動し、行政が応援し協力するというのが重要だと思いました。

行政ができることとして、「推進、協働、支援」があります。「協働」は、住民や事業者のみなさんと手を携えて進めていくということです。地域にどんな人がいて、何ができるのかをまず把握することが大切です。こういうことがしたいので一緒にやってくれないか、などの相談をしながら取り組みます。「支援」は、これをやりたいから応援してほしい、ということをも市民の方から呼びかけてもらうことが必要で、行政としても支援の仕組みを充実させたいと思っています。

いまはテーマごとに分かれて話を進めてもらっています。なぜかという、言わばなしで人任せな話し合いにならないよう、興味のある分野のことを話してもらい、取り組みにつながるような意見交換をしてもらいたいからです。さらに、新しい人のつながりができて、今後の活動につながることを期待しています。

近畿大学では7月にオープンキャンパスをするために準備会議をしました。そこでは、様々な分野の先生方からたくさんの華々しいアイデアが出てきますが、「そのアイデアは誰が取り組むのか」という話になると、身の丈に合った適度な大きさにしぼんできます。みなさんの話し合いの中でも、わたしたちがやる「一人称」という視点を念頭に置いてもらいたいと思います。

ワークショップ

各グループの意見交換の概要

生駒でめざすライフスタイルの共有を、グループごとに行いました。

《チームいこまダ！》

メンバー：坂口さん、筋原さん、藤井さん、土肥さん、塚さん、福西さん、建林さん、別所さん（8人）

前回出された6つのテーマを充実させていくために、「まずは、自分たちのできること」を考えることで、「一人ひとりの意識をさらに高めていく」ということを目標に進めました。また、自分でできること、家族や地域単位で取り組むことなど広げていければということ、取組みを広げるために、「皆に声をかけていく」ということも確認しました。今回は、前回出されたテーマのうち、「あいさつのあるまち」、「のんびりできる場所」を中心に意見交換を行いました。次回は、残りのテーマについて検討していくことになりました。



キーワード	内容（・：現状について（取組みなど） ・：アイデア）
あいさつのあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校によっては、独自の取組みをしている。（壱分小、桜ヶ丘小） ・ペットの散歩をしている人同士だと、知らない人でも声を掛けやすい。近所の知っている人には、毎朝声を掛けるのはどうか。勇気をもってあいさつをしていく。 ・グループで、順番などを決めて、駅前等であいさつをしては。地域の取組みの腕章着用や交通安全の旗を持っている人には、こちらから声を掛けるようにする。 ・子どもには声を掛けづらい（不審者扱いの可能性）。学校側でも地域の人にあいさつするよう促してもらおう。 ・まずは、家族どうしであいさつしあう。
顔見知りになる場	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつをするにも、近所の人でも知らない人が多い。 ・個人情報の関係で、地域（自治会、PTA など）の名簿が作れないので、どういう人がお住まいかが分からない。 ・地域で地区内清掃を行っている。（年1~2回） ・自治会行事がある。 ・宅地開発業者主催のバーベキューパーティがある。 ・通学距離の長い小学校の通学路沿道の家やコンビニが小学生にトイレを貸す体制をつくっている。 ・通学距離の長短に関わらず、同じような受け入れ体制をどこでもつけれないか。
のんびりできる場所	<ul style="list-style-type: none"> ・白庭台のエコパークには行く。 ・山麓公園には、散歩などゆったりしに行く。 ・コーヒーショップには人が一杯いる。そういう場所を求めているのでは。 ・近鉄屋上に将棋ができるスペース、セイセイビルの1Fに開放スペースがある。 ・図書館の1Fフロアはなんだか落ち着かない。もったいない。 ・大人がのんびりできる場所や中高生がちょっとおしゃべりする場がない。市役所を開放する。

《生駒を愛するチーム：チーム「ほたる」》

メンバー：植田さん、藤江さん、梁瀬さん、出水さん、末光さん、栗巢さん、安部さん、大西さん、古林さん、小泉さん、菊田さん（11人）

前回、「暮らしのイメージ」として共有化した「五感で感じる」ことをさらに具体化していくため、それぞれが気になっている景観や環境の問題、その問題の解決に向けた取組みなどについて出しました。

出された意見の中で最も多かったのは「水」についての意見で、特に市



内の川やため池に対する思いなどが多く出されました。また、「緑」についての意見も出され、川、ため池、農地、里山など「水」「緑」が一体となって景観・環境が形作られているという意見も出されました。

今回は「水(川・ため池)」や「緑」などを良くしていくためにできる一人称のアイデアを出し合うこととしました。

	現状・課題	具体的な取り組み
水(川・ため池)	<ul style="list-style-type: none"> ・竜田川は歴史的にいわれのある川で、かつては水もきれいでホタルもいたし、子どもが泳いでもいた ・宅地化が進むことで自然環境を壊してきた ・水はかつてよりきれいになってきたが、水に親しむ空間がない ・水辺空間は危険で、子どもを近づけないように教えている ・ISTA はばたき付近では住民で川沿いにコスモスを植えている(最近草引きが大変なので菜の花に変えようとしている) ・図書館付近で川の掃除をやっていた 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状をみんなで歩いて確かめに行く ・子どもと一緒に楽しみながら取り組みを行う(ビオトープづくり、環境学習など) ・川の水をよごさない暮らしを考える(生活排水の出し方など) ・水辺を感じられる場所でレストランなどを地元の人でひらく ・それぞれ個性をもった川づくり・ため池づくりを進める(場所にあった植生を考えるなど)
緑	<ul style="list-style-type: none"> ・緑が荒廃しており、見た目はいいが、近くに近づける状態ではなくなりつつある ・鬱蒼と茂った遊歩道があり、安全面でも問題がありそう ・沿道の街路樹は涼しさを感じられる大切な要素だが、木陰を感じる高い木が無くなってきている ・耕作放棄地が増え、昔ながらの田園風景が失われてきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・山と自分の家の中間にある緑を「新たな里山」として有効に使う ・安全な遊歩道になるように市民も協力する ・沿道の街路樹を市民で管理できるようにする ・私たちができる取り組みを後押しできる雰囲気作りを行う

《チームバリアフリー(高齢者にやさしいまちづくり)》

メンバー：柳川さん、塩井さん、荒井さん、田中さん、美浪さん、井上さん、加納さん(7人)

前回出たキーワードをもとにふりかえりを行いました。そのなかで、生駒市は「住宅地開発による生活空間のまとまりが出来た経緯から地域のつながりは比較的薄い」「市としては大阪市内に近接性があるが、市内においては交通利便性が低い」といった意見が出され、「基本的に高齢者は暮らしにくいまち」という観点から考える必要があるのではないかという意見が出されました。そこで、どのような対応が求められるかを考えました。

一方、「高齢者の暮らしやすさをサポートするだけでは駄目」「高齢者が生きがいを感じられるような仕組みが必要では？」といった意見も出され、次回以降の検討課題となりました。



検討テーマ	内容
生駒市は地域のつながりが薄い	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立させない仕組みづくりが必要 (配食サービス等の地域で支えあう、地域包括支援センターの活用、自治会単位の取組みの活性化など) ・若い頃から地域と関わりをもつ工夫が必要 (年を取ってから地域と関わるというのでは手遅れ)
市内の交通利便性が低い	<ul style="list-style-type: none"> ・行政側の取組みとしては、デマンド交通やコミバス等が検討され、取り組みも行われつつある。 ・買物に関する移動が最も大変であり、事業者側の協力や連携も必要。 (事業者側のメリットも必要)
高齢者が生きがいを感じるができるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ・生駒市には様々な知識、技術・ノウハウを持った人がいるので、彼らの特技を活かす場づくりが重要。 例：スキルを登録する制度(市民活動推進課で同様の仕組みアリ) 地域に眠る人材の掘り起こし(地域住民が自らの足で探して集約する)

《自然っ子(仮)》

メンバー：木村さん、塩瀬さん、巽さん、西さん、長谷川さん、福山さん(6人)

生駒市で実現したい暮らし方を、スポーツと関連させて実現するための、たくさんのアイデアが出てきています。今回は、いままで出てきたアイデアを整理して、「(わたしたちが) と一緒に」「 のために」したいと思う、という目的の部分整理了しました。

スポーツを通して、健康で明るく楽しく暮らし、地域のことを知ることができ、子供たちを自然の中で健やかに育て、人とのつながりを育みたい、という目標の柱が浮かび上がってきました。

次回以降は、今回整理した目標の柱に沿ってさらにアイデアを出しながら、具体的な活動の話をしていきたいです。



目標の柱	内容
健康で明るく楽しく 地域のことを知る	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、明るく楽しい毎日、高齢者の健康 ・地域の人たちと自然への関心をもち大事にする ・生駒に詳しい人たちと、より良く生駒の町を知りたい ・(自然・名所・星空などの)知識を深め、大人も子どもも楽しむ ・「生駒学」: 地域のことを良く知ること、真剣に考えるようになる
子どもたちを育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの、心と体の健全育成 ・運動の苦手な子どもを集めて早朝スポーツ(はや寝、早起き、朝ごはん) ・子どもに「生きる力」を(スポーツを通して色々な経験を) ・庭でとれた野菜で子どもと弁当をつくり、みんなで生駒山ハイキング
色々な人とコミュニケーションを図る	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くことを通して、いろいろな人と出会う ・あまり外出しない人がスポーツのために外に出る ・世代を超えたコミュニケーションを活発にする ・休耕田で野菜づくりを通して、人とのつながりをつくる ・早朝ラヂオ体操で毎朝顔を合わせる
たとえばこんなことも・・・	<ul style="list-style-type: none"> ・ノルディックウォークで「婚活」 独身の男女と一緒にノルディックウォークをしてみよう うまいけば子どもが生まれて、生駒市の人口が増える??

《明るい生駒をめざす会》

メンバー： 秋山さん、小山さん（2人）

前回のキーワードをもとに、具体的にできそうな取り組みを考えながら、目指したい暮らしやまちの姿をイメージしました。前回は出されていなかった子どもや子育てに関するテーマも含めて、3つのテーマでとりまとめを行いました。



メンバーは2人でしたが、テーマも明確になってきたことからグループの名前を決めました。また、発表の際には議論に加わっていただける人を募集する呼びかけを行いました。

テーマ	内容
いろんな鳥のさえずりが聞こえ、心いよされる暮らし（まち）	<ul style="list-style-type: none">・鳥の餌になる実のなる樹木を庭に植えることで鳥を身近に感じることができる。・生駒のように豊かな自然が身近にあるところでないといない鳥のさえずりがいつまでも聞こえるようにしたい。
子ども達が心のゆがみなく、のびのびと遊び学べる暮らし（まち）	<ul style="list-style-type: none">・登下校の時刻を地域の人に知らせておいて、その時間帯はみんなで気をつけるようにすればよい。・毒のある木が植えられている（生えている？）ところもあるので、木の種類をしらべて注意を促すようなことならできそう。・子どもたちがワクワクするような公園にしたい。
みんなが活き活きと活動・会話し、ストレスのない暮らし（まち）	<ul style="list-style-type: none">・高齢者や障害者の他、一般の人でも心の悩みを抱えている人などの憩いの場、話を聞いてあげる場が必要。・同じ悩みを持つ人やその家族のグループで助け合うようなしくみができればと思う。・高齢者のお出かけをサポートする仕組みはつくれそう（送迎、バスの時刻をわかりやすく教えてあげる など）

講評

近畿大学教授久隆浩氏

発表の中で「婚活」のアイデアが出てきました。実は私がお手伝いしている中で、川西の能勢電鉄では、妙見山への「婚活ハイキング」の取組みをされています。電鉄の沿線ではニュータウンの人口が減少してきており、能勢電鉄としては、通勤や通学のために毎日乗車してもらうために働く世代や若い世代に住んでもらいたいという思いがあったので、取組みが実現しました。事業者の方は、メリットがあれば協力してくださいますので、そういう呼びかけ方も頭に置いておいてください。

ふりかえりシートから

「ふりかえりシート」の中からのご意見をいくつかご紹介します。

- ・グループごとに特徴のある話し合いになってきた。その根本の考え方には共通点がありそう。
- ・グループの話し合いがスムーズになってきた。
- ・他の人が生駒を良くしようとしている姿勢がわかってよかった。
- ・知らないところで、すでに活動が始まっていることがわかって驚いた。
- ・もっと話し合いの時間をもちたい。時間の管理をしっかりしてほしい。

事務局

生駒市都市整備部都市計画課

TEL：0743-74-1111（内線 564） FAX：0743-74-9100 mail：ikotoshi@city.ikoma.lg.jp